

◆特集対談◆白神森林組合 ～地域林業の現状～



ガウルスロボ

Q 外国産材の輸入比率が高まり、地場産材の値段が上がらない状況では、地域林業の状況は非常に厳しいと思いますが現状は。

木材価格が低迷し、昭和55年をピークにして価格が約9分の1となっております。伐採しても山の所有者に利益の還元ができない。そのため林業に対する意欲が落ち、山に行かなくなって荒れてきている状況にあります。

Q 間伐、皆伐で出た木材は主にどのような方面で利用されているのでしょうか。

一般材は木材市場、合板材は秋田市の合板工場、チップ材は地元へ供給しています。率としては一般材50%、合板材25%、チップは25%程度。全体の取り扱い量は、前年度実績で約3万立方メートルであります。

Q バイオマス発電や火力混焼のチップ等の材料が続かないという話を聞いたことがあります、どのような状況でしょうか。

足りないというよりも価格との問題があります。組合では現在は地元へ100%出荷していますが、ほかのところでもバイオマス発電が計画されている状態ですので今後、不足も予想されると思います。

Q 実際の現場で働く労働力は足りていますか。また年齢の分布はどのようになっていますか。

労働力は不足している状況で、年齢においては当組合の若い人で40代、平均年齢は54歳となっております。65歳を定年としています。若者の就業を期待し、林業大学校も開校しましたが、PRが不足していたのか、まだ認知度が低く、能代山本ではことは入学者がおりませんでした。今後は入学対象の学生へPRをしながら、卒業生を各部署で採用をしていきたいとは考えています。

Q 労働力不足、またコストの面からも当然、機械化に移行していかざるを得ないと思いますがどのようにお考えでしょうか。

去年、能代市からも林業機械導入に支援をいただき導入した機械は、作業道を開設していくときに木の伐採・土の掘削・整地を一台でこなす、すぐれもの「ザウルスロボ」と、伐採した材木の積み込み運搬を一台でこなす「フォワード」という機械であり、効率よく作業を進めています。大変有意義に使っております。



フォワード

Q この先、さらに機械を導入する予定などはありますか。

大型機械に大きいエンジンがつき、枝落としをしながら設定した寸法に玉切りするハーベスタという機械があります。これが揃ってさらに一連の作業が円滑に効率よく進むので、さらに機械を導入する計画を進めているところです。

Q 集材や運搬のコストを下げるためには林道や林業専用道路などの路網整備が大事であると思いますがいかがでしょうか。

路網密度が上がっていくことは望ましいと思いますが、今まで林道と農道を一体に整備することがなかったため、林道が整備されても手前の農道が狭くて結局、敷き鉄板等で搬出しなければならぬ場所が多くある状態。コストを下げるには木を出せる場所に大型トラックが入れることが条件。現状では木材の単価が上がることは期待できませんが、現状の単価でも機械化等でコストダウンした分の利益を少しでも、山主に還元できればと思います。

貴重なお話をどうもありがとうございました。

(取材：落合範良 落合康友)



白神森林組合の畠山さんと佐藤さん